

【紀北町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」に示されています。

この答申では、子供たちの資質・能力を育成することが求められています。具体的には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が重要視されています。

「個別最適な学び」とは、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた学習計画に基づき、児童生徒が1人1台端末を通じて、場所や個人の資質、環境にとらわれず、個々の理解度や学習ペースに合わせた学びを目指すものです。

「協働的な学び」とは、1人1台端末を通じて他の児童生徒と交流することにより、児童生徒が他者の多様な考えに触れ、自己の考えを広げ高める学びを目指すものです。

紀北町では、紀北町第2次総合計画の基本目標「心豊かに夢を育む教育・文化のまち」に基づき、「自立・協働・創造に向けた一人ひとりの主体的な学び」を重視した学校教育の充実を目指しています。

2 GIGA 第1期の総括

紀北町では、GIGAスクール構想の実現に向け、令和2年度に736台の端末を導入し、町内すべての児童生徒への端末整備と通信ネットワーク構築を完了しました。

教員によるICT活用研修についても、研修会の充実や関連企業等の講師を招いた研修会を実施するなど、積極的に取り組んできました。定期的な研修の実施により、教員の関心は高まり、指導力も向上しています。

端末やネットワークの不具合については、サポート業者に各学校への定期・随時巡回を委託することで対応しています。

また、感染症等による学級・学年閉鎖時においても、すべての児童生徒の学びを保障するため、端末の持ち帰りを可能とし、自宅にネットワーク環境がない児童生徒にはモバイルルーターを貸し出すなど、学びを止めないための対策を講じています。

一方で、学校や教員によるタブレット端末等の活用頻度には差が見られ、教員の意識やICT活用指導力のさらなる向上が求められています。また、タブレット端末の破損や故障、ネットワークトラブルなども課題として挙げられる。

3 1人1台端末の利活用方策

引き続き町内・校内研修会を定期的に開催し、タブレット端末を日常的に活用できるよう、教員のICT活用スキルの向上を図ります。児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやり取りする場面」において、1人1台端末を積極的に活用していきます。

町内の教員がより一層情報共有できるよう、各種クラウドサービスの積極的な活用に向けた仕組みづくりに注力していきます。

不登校児童生徒など、特別な支援を要する児童生徒に対し、「リモート授業への参加」「課題等のオンライン送付」「外国人児童生徒に対する学習活動支援（翻訳機能等）」「障害のある児童生徒への支援」など、多様な場面でのICT活用を検討します。